

学校評価アンケート（3学期）考察

R4 2. 25

[確かな学力]

- 生徒の授業に対する肯定的な評価が非常に多かった。(理解・工夫・ICT)
- 保護者、職員のICT活用に関する項目の評価が上がった。
- クロムブック増台、リモート授業の取組により、タブレット等が少しずつ身近になってきた。
- 基礎・基本的な学力の定着、家庭学習の取組については、1学期よりアップしたものの、教職員の評価が低い。
- 基礎・基本的な学力の定着につながる家庭学習の在り方について検討が必要。

[豊かな心]

- おおむね良好である。アンケートの数値からは、ある程度の規律と温かさのある集団ととらえられる。
- 悩み事を誰かに相談できていない生徒が17名。普段の生活ではなかなか見えてこない。
- 生徒と教職員とのつながりはもちろん、生徒同士のつながりを強化していく必要がある。

[たくましい心身]

- 体を動かすことについては、おおむね良好である。
- 学校の感染予防対策については、高評価。
- 睡眠について、意識が高まってきた。
- 「健康増進や体力向上のために自ら進んで行動している」の項目で生徒、教職員は高評価であったが、保護者は1学期よりも下がった。
- 部活動がない期間が長かったため、体を動かす機会が減り、保護者の評価は下がったと思われる。
- また、部活動がない中でも、朝のランニングや昼休みで体を動かしている生徒の様子から、生徒や教職員の評価は上がったものと思われる。

[教育環境]

- 生徒、保護者、職員共に良好。

[学校・家庭・地域の連携]

- 概ね良好である。平戸市に対する愛着や地域とのつながりの強さを感じる。
- 生徒は文書を渡していると答えているが、保護者の評価は低い。
- 提出しなければならないもの（授業参観の出欠票など）が渡らず、困った経験が、マイナスの印象を強くしている可能性もある。配布物ボックスに入れたものは、生徒が配付するが、必要に応じて、担任から口頭で確認し、重要なものはフォーサイトにメモさせるなどの工夫も必要。

[教職員]

○おおむね良好である。

→働き方改革、連携や協力体制の項目がⅠ学期よりもアップした。しかし、ワークライフバランスについてはダウンしている。次年度に向けて、学年や分掌の業務内容を振り返り、労力に対して効果が低いものは、カットも含めた内容の見直しを図る必要がある。また、効率よく働ける校務分掌組織の見直しも必要である。

***全体を通してほとんどの項目でⅠ学期よりも評価が高くなっている。**